

令和3年度 川口市社会教育委員会 会議録

【開催日時】 令和3年8月3日（火） 10時00分～11時15分

【会 場】 第一本庁舎601大会議室

【会議経過】

1 開会

2 委嘱書交付

3 挨拶

川口市教育委員会教育長 茂呂 修平

- ・ 昨年の会議では、委員の皆さまから、それぞれのお立場やご経験から多面的・多角的にご意見をいただき、おかげさまで、本市の事業を充実させることができた。任期2年目の本年度も引き続き、住民と行政を結ぶパイプ役を力強くお願いしたい。
- ・ 現在東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されており、日本の選手が世界の舞台で活躍している姿は、私たちに大きな勇気と希望を与えている。
- ・ 一方、新型コロナウイルス感染症の急激な感染拡大から、緊急事態宣言が発令されてしまった。現在子供たちの安全安心を第一とした教育行政の推進並びに学校経営の推進に試行錯誤を重ねている。
- ・ 新学習指導要領では、「社会に開かれた学校」の実現に向け、その目指すところを社会と共有、連携していくことの重要性が示されている。このことを受け、地域と学校がパートナーとなって様々な活動に取り組めるよう今年度から新規事業として、「地域学校協働活動」をスタートさせた。
- ・ 本日の議題の一つに「地域学校協働活動の推進について」があるが、委員の皆さまには地域学校協働活動についてご理解いただき、活発な意見交換が行われることを期待する。

4 委員・事務局紹介

5 議長の選任・挨拶

議長として平田委員が推薦され、選任された。

6 議事

公開の宣言

※事務局より、川口市附属機関等の会議公開に関する要綱に基づき、会議が公開であることを宣言した。また、公募の結果、傍聴人が一名いることを報告した。

(1) 令和3年度社会教育関係団体補助金交付について【審議事項】

事務局が資料に基づき説明した。

(事務局) 令和3年度社会教育関係団体補助金交付承認について審議を求める。

(議長) 特に異議がないため承認とする。

(2) 令和3年度生涯学習課の事業について

事務局が資料に基づき説明した。

質問はなし。

(3) 地域学校協働活動推進事業について【意見交換】

事務局が資料に基づき説明した。

協議テーマ「地域学校協働活動の推進について」

議長より、意見を委員に求めた。

(委員) 学校運営協議会の委員であるとともに、放課後子供教室の運営に携わっているということもあり、学校に足を運ぶことは多い。そういった中で地域の者として感じていることは教室にいるときには課題のある児童として挙げられている子でも放課後子供教室では違った一面を見せていることがある。夢中になるものを見つけると学校で生活している時とは違った表情を見せ、目覚ましい成長を遂げている。こういう姿を先生方に見ていただけたらよいと感じる。先生方もお忙しいのだろうが、活動を見に来ることはほとんどない。活動を見に来てもらったり、地域との防災訓練を行ったりすることで、学校とつながりを持ち、学校と地域が相互に理解し合えたらと思う。

(委員) 地域連携生徒指導委員会という会議を開催し、中央地区の主任児童委員さん3名に参加していただいている。学校の内外で起きている生徒指導の問題についてご意見をいただき、学校運営に生かしている。校務分掌等の会議に主任児童委員さんに参加していただくと教育に役立つのではないか。

(委員) 地域の方々と一緒に子供たちを育てるということに取り組んでいるが、コロナ禍のため活動が困難である。昨年度はバスによる校外学習ができなかったが、今年は歩いて行けるところに積極的に行き、地域の方々と関わる機会を組み込んでいる。地域の方々にはお世話になっており感謝している。

(委員) 小学校は地域と学校との連携を比較的図りやすいが、中学校は難しい。中学生や高校生は逆に地域に貢献できる活動を取り入れていくとよいのではないか。実際に市内でも地域の防災訓練で中学生がリーダーになっているという事例がある。地域の運動会にもどんどん参加していくとよい。

(委員) 芸術家にとって発表することも大事だが人と関わっていくことも大切である。芸術家として人材バンクに登録している方々を学校側が把握できれば、我々は様々な協力ができる。学校は地域にどんな方が住んでいて何ができるのかを知っていくことが大切。

(委員) 中央ふれあい館で琴の演奏の活動をしている。埼玉県ではいくつかの学校に招かれて教えたことがある。川口市でも協力していきたい。

(委員) 茶道会では日本文化を教えたいと思っている。畳のへりを踏んではいけないということや上座下座があるということなどを子供も大人も知る機会が少ない。リアや旧田中邸、公民館には畳の部屋があるので、課外授業として活用し、日本文化を教えていきたい。人材バンク“魅学”を活用していただければ、どんどん教えていきたいと思っている。

(委員) 中高生が地域に参画していくという話があったが、そのような話題で川口市立高校の生徒が新聞に載っていた。高校生が地域に入っていくというのは小学生や中学生にとってもよいことだと思った経験がある。また、飛行機のミラーを設置していることでよく知られるコミーという会社の会長さんが箸の学会を立ち上げ、テレビ番組にも登場されていた。そういう素敵な人材に地域学校協働ネットワークに入っていただきたいと思う。

- (委員) 放課後子供教室と放課後児童クラブの両方に携わっている。自ら考えて行動できる子を育てたいと思っている。安行中学校にボランティア部があるが、地域に出ていく活動がとてもしよい。公民館との連携についても考えていかななくてはならないだろう。教育委員会には学校と運営団体のスムーズな関係をつくっていただきたい。
- (委員) 町会の運動会や祭りに参加する子供の数には地域差がある。お互いに待っているだけではなく声を出し合っていくことが必要。運動会があるなら発信して参加してもらう必要がある。
- (委員) 令和3年1月26日、中央教育審議会において『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)」が取りまとめられた。学校の先生方は様々な思いの中で苦勞なさっている。学校が耕しているところを地域も寄り添い補う。また、中学生・高校生・大学生・専門学校生などの持っている地域参画力を生かし、地域に還元しつつ成長する機会をもてるとよい。織りなすということや紡ぐということを具体的に推進できるとよい。
- (委員) 大学入学のため上京し、川口で育ててもらったという思いがある。恩返しをしたいということで、家庭教育を支援したり、埼玉いのちの会の代表として教育後援会を行ったりしている。事務局へのお願いとして、放課後子供教室を全校設置していただきたい。国の宝である子供たちを育てるために学校と地域の連携が必要だが、学校によって熱の有無に違いがある。将来ある子供たちのためにどう取り組むか、この社会教育委員がそれぞれの立場で意見を交わしながら実践していくことが大事である。

(4) その他

- (委員) 地域学校協働活動について他県や他市の情報も参考にしながら、地域に応じて取り組んでいってほしい。

7 閉会